

令和5年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

| | |
|---------------------------------------|--|
| 事業の名称 | 附属旭川「12年教育」の実現 －多様な人と関わり，豊かな人生を切り拓く人材の育成〔中学校編〕－ |
| 事業実施代表者名 | 附属旭川中学校長 川邊 淳子 |
| 実施附属学校名 | 附属旭川中学校 |
| 事業内容 (実施内容について， 1,000字程度で記述) | <p>これまで旭川地区で進めてきた幼小中の「12年道徳」に加えて，今般求められるグローバル化・ダイバーシティー社会への対応を踏まえて総合的な学習の時間「グローバル」の取組を拡充するものである。</p> <p>変化の激しい世の中で，グローバル人材としてたくましく生き抜く力に関わる「GRIT」や「非認知能力」，「情報活用能力」，「問題解決力」の育成を目指し，最終的には幼小中が連携し，園児児童生徒の成長を総合的に的確に記録化し，把握するためのカルテ“キャリアパスポート（附属版）”に関わる調査・研究として継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳適性検査の実施 2 「GRIT」や「非認知能力」に係る実態把握 3 総合的な学習の時間「グローバル」の検討 4 英語教育を軸とした幼小中連携 5 生徒及び保護者への啓発重視 6 幼小中の12年間を見取るシート（デジタル版）の開発 7 道徳教育の改善・充実に係る講師講話 |
| 成果と課題 (活動の成果と課題について， 500字程度で記述) | <ol style="list-style-type: none"> 1 「道徳適性検査」については，R5，11月22日に実施し結果の分析を教員で共通理解した。 2 「GRIT」や「非認知能力」の育成について，年度当初から，月に2回の研究に関わる会議において定期的に扱ってきた。 <ol style="list-style-type: none"> ①指導する側の教員の理解促進 計：21回（R5.2/13まで）の研修 ②指導計画との関連，位置付けの確認，検証サイクルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導計画・評価計画への位置付け ※第3観点との関連を検討 ・前期・後期，中間の3回の評価・評定の妥当性の検証 ・「GRIT」や「非認知能力」については，教員及び生徒に調査を実施し，課題を洗い出した。 3 総合的な学習の時間「グローバル」の改善・充実 【全ての教科で共通して活用できる能力を育成する】 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を発見し，ゴールを見いだす力 |

| | |
|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもったことに対して粘り強く問い続ける力 上記の力を育成するために「探究活動」を土台として、「地球規模でものや人を捉えることで、改めて自らが住む『旭川』という街について前向き・建設的に考えを深める。」「あらゆるものや人の動き・変化が地球規模で一体化することについて考え、『グローバル市民』として自分を捉える。」学習として「グローバル」を新設する。 4 英語教育を軸とした幼小中連携 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・・・英語教育「英語で学ぼう」、英語で中学生と交流 小学校・・・英語でプレゼン交流、中学生と英語で学ぼう 中学校・・・「グローバル」の表現方法として英語を用いる。 5 生徒及び保護者向けの啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：連絡進学（小6）への指導、入学志願者説明会、学年・学級の立ち上げ、学級活動、総合的な学習の時間、道徳など ・保護者向け：入学者説明会、入学式後説明、学年懇談資料、3者面談時、2者面談時など 6 幼小中の12年間を見取るカルテ（デジタル版）の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中で、それぞれ育むべき資質と、それらを見取る場面などの洗い出し、各校園において実践を進めている。 7 道徳教育に係る研究授業と講師講話（1/22実施） <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と指導方法の関連について理解を深めた。 ・成果を2/1実施の研究大会Ⅲで授業公開をした。 |
| <p>今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述）</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳適性検査については、小学校と連携を図り9年間の長期的なスパンで児童生徒の育ちをモニターする取組を継続する。 小中の教職員間で共有し他内容を幼稚園にも情報提供する。 2 ヒドゥンカリキュラムの色合いが強いことから、全教員が様々な教育活動において、育み・高めることを意識して指導に臨むことができるように、研修機会を定期的に設定する。 3 総合的な学習の時間「グローバル」におけるより質の高い教育課程編成に向けて、幼小中一体となったカリキュラムマネジメントの実施や理論研究を進めながら実践を積み上げていく必要がある。 4 ウィズ・コロナの時代にあっては、生徒に対しても保護者に対しても、附属校園の研究や事業に係わる説明・理解を図る機会を意図的に設定するなど、啓発の方法を工夫する必要がある。 |
| <p>事業の公表状況 （事業をHPで公開し</p> | |

| | |
|----------------------------------|--|
| た場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入) | |
|----------------------------------|--|

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。